

（個人型確定拠出年金 iDeCo対象者の拡大と加入者数等）

国民年金に加入するすべての人(60歳未満)が働き方の多様化や、さまざまなライフプランに合わせてiDeCoに加入し、老後資金を準備できます。

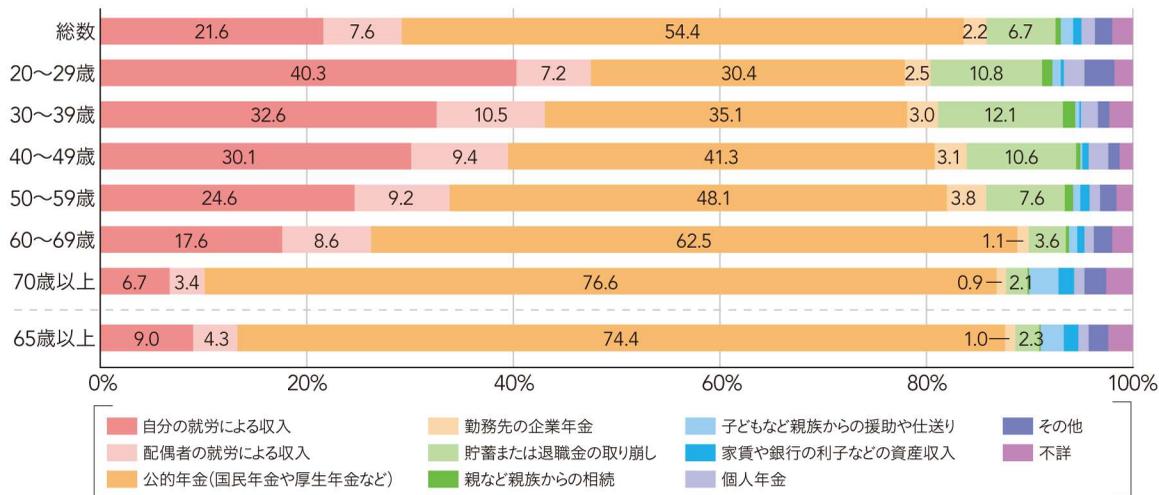


個人型確定拠出年金 iDeCoについて もっと知りたい場合は

制度の詳細については、「iDeCo公式サイト」をご覧ください。
アニメやマンガによるiDeCoの紹介、税制優遇シミュレーションもできます。

iDeCo <https://www.ideco-koushiki.jp/>

⇒ 図：老後の生計を支える手段(一番目に頼りにするもの)



出典：厚生労働省「社会保障における公的・私的サービスに関する意識調査報告書」(2015年)

「ねんきんネット」の利用、年金額の試算について知りたい場合は

日本年金機構のホームページをご覧ください。
昔ばなし風アニメーションによる「ねんきんネット」の紹介動画もあります。
スマートフォンからアクセスし、年金額の試算も可能です。
http://www.nenkin.go.jp/n_net/

ねんきん相談カフェ



聞く人
由香 (41歳)
会社員

答える人
先生
社会保険労務士

老後の生計を
考えてみる

2017年1月に対象者が拡大された個人型確定拠出年金iDeCo(イデコ)の加入者が増えています。老後の生計との関係を考えてみましょう。

由香 職場の友人が昨年からイデコに加入して、払った掛け金を年末調整で申告したと言っていました。

先生 個人型確定拠出年金のイデコの掛け金は月額5000円から設定できて、老後資金の準備をしながら税制優遇措置を受けられます。

由香 イデコは2017年1月に加入者が拡大されたんですね？

先生 ええ、拡大される前の2016年12月時点から9カ月で、加入者は倍以上になったんですよ。

由香 そんなに増えたんですね！

先生 老後の生計の柱には、まず公的年金があります。プラスアルファの老後資金の準備として、イデコが選択されたのでしょうか。

由香 そういう意識を持つようになったということでしょうか？

先生 老後の生計を支える手段に関

する2015年の意識調査(図)を見ると、老後の収入に対する考え方は、世代によって違うようです。

由香 20代は、自分の就労による収入が多いけれど、30代以上はやはり年金なんですね。

先生 ええ。どの世代も公的年金が老後の生計の大切な柱になりますから、自分の年金をいつから、いくら受けられるかを知ったうえで、老後資金の準備をすることが大切です。

由香 年金見込み額は「ねんきん定期便」に表示されていますよね。

先生 50歳未満の「ねんきん定期便」の年金見込み額は、今までの加入実績に基づいて計算されています。日本年金機構のホームページの「ねんきんネット」を使えば、今後の働き方や給与などを設定して年金額を試算できますよ。

横山玲子
(よこやま れいこ)
社会保険労務士
横山玲子社会保険労務士事務所代表。
横山玲子社会保険労務士事務所ホームページ
<http://www.r-yokoyama-office.jp/>
Twitterアカウント @mayokor